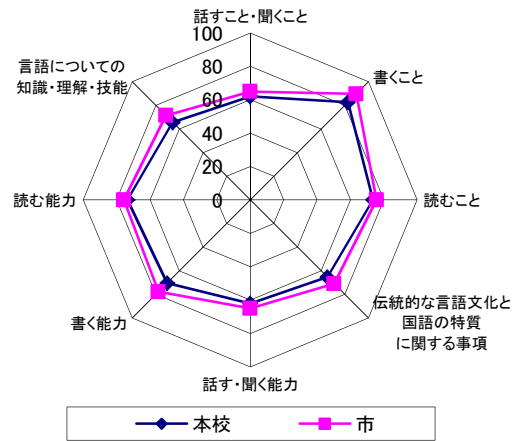


宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	62.0	64.9	69.8
	書くこと	82.7	89.8	81.9
	読むこと	73.5	75.6	75.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.3	71.0	75.0
観点別	話す・聞く能力	62.0	64.9	69.8
	書く能力	70.4	77.7	73.7
	読む能力	73.5	75.6	75.1
	言語についての知識・理解・技能	65.7	71.4	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

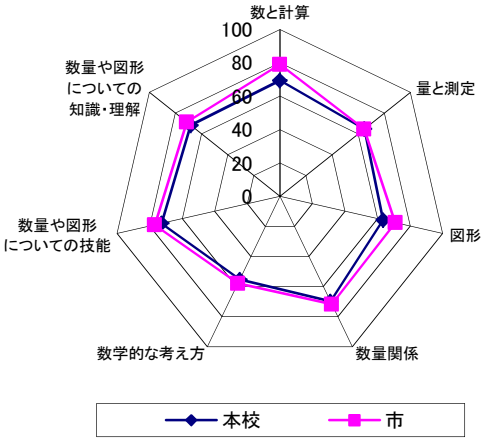
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○相手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことは正答率が高い。 ●司会者の役割を理解して話し合いのテーマに合った発言をするように書くことは、正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・要点を絞って人の話を聞いたり、聞いたことを要約したりする体験を多くもたせることにより、それらを通して「話すこと・書くこと」の力の定着を図っていきたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均正答率を下回っている。 ○自分の意見とその理由を区別して書くことは正答率が高い。 ●指定された長さや段落構成に気を付けて文を書くことは市の正答率より低い。	・自分の伝えたいことを、短い文章にまとめる学習を多く行ってきた。指定された長さや段落構成で文章を書く練習をさせていきたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○登場人物の心情や場面の描写の読み取りは正答率が高い。 ●段落相互の関係の読み取りは正答率が低い。	・児童はよく読書をするが、物語に偏りがちである。国語科だけでなく、総合的な時間など他教科とも関連させて、より多くの種類の書物に触れさせていきたい。 ・説明文を取り上げ、段落相互の関係について学べるような指導に努める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率を下回っている。 ○第5学年配当の漢字の読みや謙譲語の使い方は正答率が高い。 ●第5学年配当の漢字の書きや主語・述語についての理解は正答率が低い。	・文法や敬語については学習内容の定着のための復習の時間を設ける。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.5	79.0	78.9
	量と測定	64.8	64.6	66.2
	図形	63.4	70.9	77.8
	数量関係	69.8	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	55.3	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	72.6	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	68.3	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

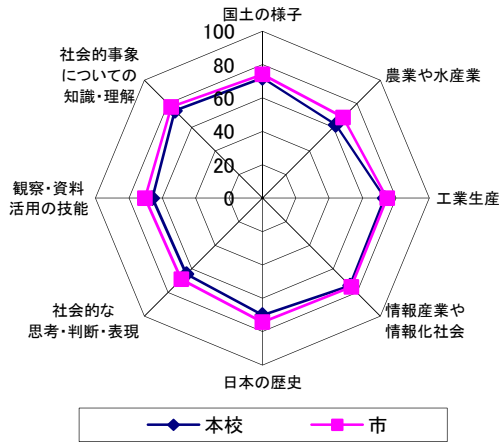
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ●通分をする分数のひき算や、分数の除法の文章問題と図を関連付けて選ぶことの正答率が低い。	・復習を繰り返し行いながら、分数の計算の定着を図りたい。
量と測定	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○「速さ」や円や台形の面積を求める設問において、正答率は市の平均より高い。 ●平行四辺形の面積を求める公式や展開図を汲みたててできる三角柱の体積を求める問題においては、市の平均より低い。	・速さや図形の面積の公式について、復習の中で確かめさせたり、反復練習の中で活用させたりしながら定着を図りたい。
図形	平均正答率は、市の平均正答率より下回っている。 ●円の直径をもとに円周を求める式について正答率が低い。	・面積を求める公式やその方法について復習をし、学習内容の定着を図りたい。
数量関係	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○円グラフから割合を読み取ったり、比例の関係を式に表したりする設問の平均正答率が高い。 ●比を使って、部分の量から全体の量を求める設問では正答率が低い。	・割合と比の問題では、比を使って部分量を求める方法を説明する力を身に付けさせるために個別指導も取り入れながら、指導に当たりたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.0	74.1	72.5
	農業や水産業	62.1	68.4	61.6
	工業生産	73.3	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	74.1	75.3	74.0
	日本の歴史	70.1	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.3	68.7	64.2
	観察・資料活用 の技能	66.0	70.3	68.1
	社会的事象についての知識・理解	74.1	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

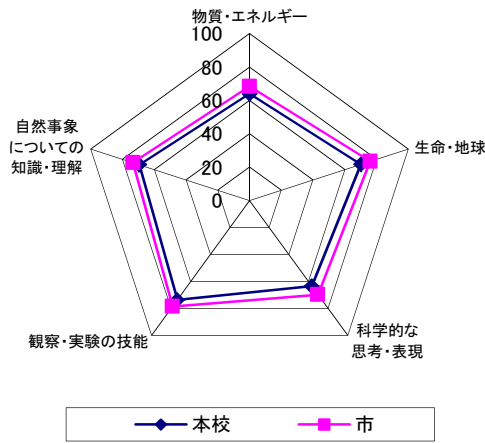
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○環境を大切にするリサイクルについては正答率が高い。 ●気候のグラフから該当する地域を指摘することについては正答率が低い。	・資料集を活用し、資料の見方を指導する。気候の特徴や地域についてはドリル演習などができるようなワークシートを作成するなど指導の工夫を図りたい。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率を下回っている。 ●米づくりに向いている地域の特色や日本の食糧生産の現状について、考察することは正答率が低い。	・資料をもとに、考察したことを文章で表すなど他教科の学習とも重ね合わせて、自分の考えをまとめる経験を多くもたせる。
工業生産	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○自動車生産の工程については正答率が高い。 ●日本の工業地帯や工業地域の特色について、地図から読みとることについては正答率が低い。	・教科書だけではわかりにくい部分については、企業の出前授業を取り入れたり、デジタル教材を使ったりして学習内容の定着を図っていききたい。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。 ○情報の利用の仕方について判断することは正答率が高い。 ●情報ネットワークについての考察は正答率が低い。	・さまざまな情報ネットワークについて例示して、自分の意見を文章にまとめさせる練習の積み重ねをしていきたい。興味関心の持続ができる資料などを活用して指導の工夫をしたい。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率をやや下回っている。 ○歴史上の人物についてやその時代の文化については正答率が高い。 ●年表や資料の読み取ることやそこから考えることは正答率が低い。	・デジタル教材や書籍などを用いて更に歴史的事象の知識の定着を図るとともに、意欲関心を持続できるような指導を継続して行いたい。 ・年表の読み取りや、資料からの考察について学習させるワークシートを作成するなど指導の工夫をしたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.9	68.3	68.1
	生命・地球	70.2	76.0	73.8
観点別	科学的な思考・表現	63.4	69.7	68.0
	観察・実験の技能	73.5	78.4	77.0
	自然事象についての知識・理解	69.4	73.4	73.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均正答率をやや下回っている。 ○メスシリンダーの目盛りの読み方や薪ストーブの構造についての説明は正答率が高い。 ●ふりこの実験の計画や修正、水溶液の性質については正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・きちんとデータをとることやデータの処理を指導した上で、授業や単元のまとめでしっかり考察をして定着を図る。 ・経験したことをもとに実験方法を考えたり考察したりする機会を増やす。
生命・地球	平均正答率は、市の平均正答率を下回っている。 ○動物の体のつくりや食べ物を通した動物と植物の関係については正答率が高い。 ●月と太陽の位置関係から月の形と見える時刻を推測したり、植物がでんぷんをつくるはたらきと日光の関係について調べる実験について考えたりすることについては正答率が低い。	・実験や観察が難しい学習内容については、模型や映像資料を使って視覚に訴えてイメージしやすくしたり、授業や単元のまとめでしっかり考察をして定着を図ったりさせる。 ・日常生活の中で、「どうしてだろう」や「なぜ」という疑問をもつ機会や理由を考える機会を増やし、授業に生かしていくようにする。